



## 事前キャンプ誘致と国際交流の充実を目指して

### —— 島根県・奥出雲町教育委員会教育魅力課

#### ホッケーの町・奥出雲町

奥出雲町は、中国山脈の山々に囲まれたのどかな山間部にあり、『古事記』『出雲風土記』に記されるスサノオが降った伝説の地となる船通山の麓には見事な棚田の景観が随所に広がり、ヤマタノオロチ神話で知られる斐伊川の源流を有する自然と歴史ロマンにあふれた町です。

人口1万3,000人にも満たないこの小さな自然に抱かれた町は、全国に誇るホッケーの町でもあります。1982年、奥出雲町(当時は仁多町・横田町)で、くにびき国体のホッケー競技が開催されました。開催当時は、ホッケー競技を知る人は全くと言っていいほどおらず、未経験者ばかりの同好会としてスタートしましたが、今では、多くの地元横田高校の出身選手が、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会(東京2020大会)の代表候補に名を連ねています。

本町は、東京2020大会に向け、インドホッケーナショナルチームの事前キャンプ誘致を目標の1つに掲げ、2017年12月にホストタウン登録を受けました。これに伴い、事前キャンプ誘致の実施態勢を充実させることや相互の文化的・教育的・スポーツの交流の充実を図るために、2018年8月から国際交流員(CIR)として、インド出身のグルン・エナさんを任用しています。

日本をこよなく愛する彼女は、奥出雲在住中は日本の氏名表記に合わせ「グルン(姓)エナ(名)」としてほしいと希望するほど、日本人以上に日本文化と風習を大切に考えながら、奥出雲町オリンピック事前キャンプ招致委員会や奥出雲町国際交流協会等のメンバーとしてもさまざまな活動に取り組んでいます。

#### 東京2020大会事前キャンプ誘致

2017年5月にインドホッケーチームの事前キャンプ誘致に取り組むことを決めてから、山陰インド協会の協力を得ながらインド総領事館や大使館等へのアプローチ

を行っていました。CIRを任用してからは、的確な翻訳作業とスムーズなアポイント等のおかげで関係機関との連携強化を築くことができました。インド側との交渉役として、重要な役割を担っているCIRは、駐日インド大使やインド女子チームスタッフ、インドホッケー協会へのプレゼンテーション等の資料作成や取り組みの進め方を含め、キャンプ誘致に係わるすべてにおいて、ともに意見やアイデア等を出し合う、事前キャンプ誘致事業には欠かせない存在となっています。



ヴァルマ駐日インド大使へ、事前キャンプ誘致に係わるプレゼンテーションを実施。(左側：勝田奥出雲町長、左手前：CIR)

2018年8月に、本町で全日本中学生ホッケー選手権大会を開催し、全国から2,000人の関係者が集まりました。来日早々のCIRでしたが、会場内に設置したインド紹介ブースで多くの来場者に明るく接し、流暢な日本語で自国文化を紹介してくれました。また、同年12月にはインドの高校生とのホッケー交流事業を実施し、インドの高校生を受け入れるホストファミリーへの心構えのアドバイスやサポートを行ったり、異文化体験活動の内容についてのアドバイザー役としても活躍し、双方にとって充実した交流活動となりました。

2019年10月末から11月上旬、現地での最終予選の応援とキャンプ実施に向けた交渉のためにインド国を訪問した時のプレゼンテーションでは、奥出雲町の魅力とインドホッケーチームの事前キャンプ誘致を願う本町

の熱い思いをインドホッケー協会や在インド日本大使館等、関係機関に伝えてくれました。そして、現地スタッフの質問や要望等が飛び交う協議にも巧みな語学力で通訳業務にあたり、インドホッケー協会からの好感触を得ることができたのもインド出身のCIRの功績であると思います。



インドホッケー協会 CEO エレナ・ノーマン氏や現地スタッフとの面会

## 国際交流活動

インドホッケーチームを誘致する上で、相手国について知ることは双方の友好的交流を構築する上での第一歩であると考え、地元地域の講演会や町文化祭のイベント等に積極的に参加し、また、「インドはカレーとタージ・マハルだけではありません。」と思いを語りながら、インドの民族や暮らし、文化、教育、経済等、インドに関する情報発信と異文化交流活動に力を注いでくれています。なかでも、調理の得意な彼女は、インドの家庭料理や食文化についても機会あるごとに地域住民の方々に教えてくれています。健康において効力抜群のインドスパイスをふんだんに使ったインド料理と彼女の気さくなおしゃべりは、毎回、参加者の皆さんから好評を得ています。

さらに、町内 10 校の小学校で「インドってどんな国? ~ Incredible India ~」の出前講座を実施したり、CIR プロデュースの基に献立を考えられた「インド給食の日」

を町内全小中学校給食において開催しました。

CIR の存在と彼女の活動のすべてが、地元住民の皆さんや子どもたち一人一人の気づきと学びの機会となり、多文化共生教育につながる場となっています。これからも CIR との出会いに感謝し、彼女とのかかわりの一つ一つを大切にしていくことが、異文化理解やグローバル感覚の育成につながると考えます。



学校給食「カーナ・カザナの日 (インド給食の日)」  
(ホワイトボード横が CIR)

## インドと奥出雲町の架け橋に

多岐にわたり活躍する CIR は、常々、「インドと奥出雲町をつなぐ役割を担っていきたい。インドのことをもっと知ってもらい、奥出雲の魅力をもっともっと発信していきながら、自分が両方の架け橋となっていければ嬉しい。」と、熱く語ってくれています。引き続き奥出雲町から HP や SNS 等を通じ世界に向けて発信し続けてくれる彼女のさらなる活躍を期待しています。



2018 年 12 月、インドの高校生と地元横田高校ホッケー部とのホッケー交流